

山武の



普及だより

山武農業事務所

山武農林業振興普及協議会

〒283-0006 千葉県東金市東新宿 1-11

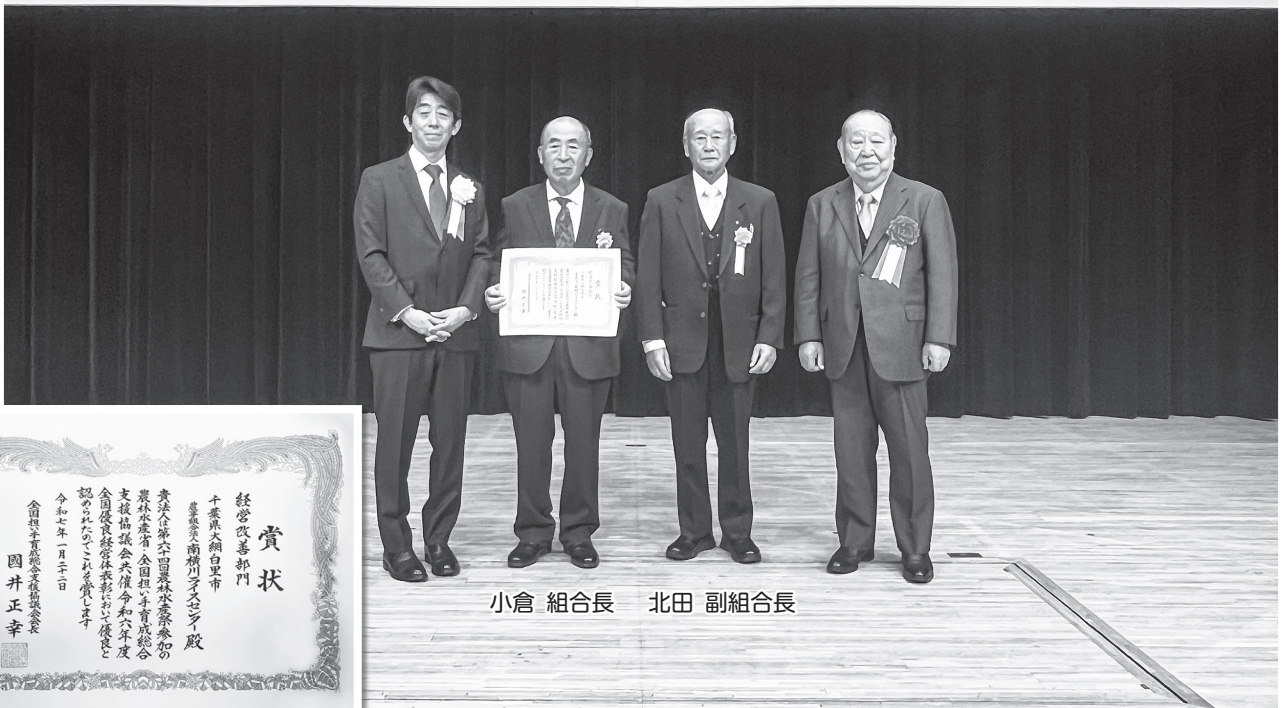
☎ 0475-54-0226 FAX 52-7914

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/index.html>

「農事組合法人南横川ライスセンター」が 「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」を受賞 ～地域農業を半世紀にわたり守り続けた活動を国が表彰～

令和6年度 全国優良経営体表彰式

主催：農林水産省・全国担い手育成総合支援協議会



小倉 組合長 北田 副組合長



大網白里市南横川地区で
水稲の苗販売、収穫・乾燥
調製などの作業受託を行っ
ている農業生産法人「農事
組合法人南横川ライスセン
ター」が、令和6年度全国
優良経営体表彰において
「全国担い手育成総合支援
協議会会長賞」を受賞しま
した。令和7年1月22日に
佐賀県で行われた表彰式に
おいて、小倉組合長が賞状
などを受け取りました。

(農) 南横川ライスセン
ターは、設立から50年以上
経過する組合員21名で構成
される集落営農組織で、地
域の水田約35haの維持・管
理に寄与しています。今回
の受賞では半世紀以上、地
域の水田を守り続けた功績
が評価されました。

農業事務所では、(農)
南横川ライスセンターに代
表される集落営農組織の取
組が、地域農業の発展につ
ながるよう支援してまいり
ます。

スイカ退緑えそ病の発生について

タバココナジラミが媒介するウイルス病「スイカ退緑えそ病」の発生が令和6年8月に千葉県では初めて確認されました。感染したスイカは、初期症状として葉に不鮮明な退緑斑紋を生じ、症状が進展すると葉脈部分を残して葉の全面が黄化・枯死します。果実には、肥大不足や糖度不足等の影響が及びます。

「スイカ退緑えそ病」の蔓延防止のためには、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除等が必要です。タバココナジラミは本病に加え、「キュウリ退緑黄化病」や「トマト黄化葉巻病」等のウイルスも媒介するため、他の品目をこれらの病気がから守ることもつながります。ウイルス病から産地を守るため、

- ①持ち越さない、
- ②入れない、
- ③増やさない、
- ④出さない対策

を徹底しましょう。

①前作の虫を次作に持ち越さないように、作と作の間に切れ目を設けるようにしましょう。ほ場内や周辺に生えている雑草も忘れずに除去しましょう。

②育苗ハウスの開口部には0.4mm目合いのネットを隙間のないように展張しましょう。

③発病株の抜取り処分、薬剤のローテーション散布、除草等を行いましょう。

④栽培終了時にハウス・トンネルを密閉し、植物体が完全に枯死してから、ほ場外に残渣を持ち出し適切に処分しましょう。

◀スイカ退緑えそ病



タバココナジラミ▶

農作業事故をなくしましょう！

農作業事故による令和4年の全国の死者数は238人で、65歳以上の高齢者の事故が全体の86%を占めています。事故区別では、農業機械作業によるものが152人(64%)、農業用施設作業によるものが5人(2%)、機械・施設以外の作業によるものが81人(34%)となっています。

農作業事故は、自他の身体的なダメージの他、所得の減少など、家族の人生設計にも大きな影響を及ぼします。農作業を安全に行うため、以下の点に留意しましょう。

法令遵守

労働安全衛生法、消防法、毒物及び劇物取締法を遵守しましょう。法令遵守だけでなく、自主的な安全衛生活動も重要です。

リスクアセスメント

農業現場における労働安全、食品安全、環境安全等に関わる様々な事故や違反の可能性をリスクと考え、必要な改善対策を講じましょう。また、ヒヤリ・ハット事例を共有しましょう。

農作業安全に取り組むことで、農業者の危険に対する意識が高まり、「不安全行動」が減少します。また、管理者、作業者など関係者が協力し取り組むことで、家族の一体感が高まります。身近に潜む農作業事故と向き合い、基本的な対策を講じることで、農作業事故をなくしましょう。



作業安全ステッカー (農水省HPより)

酷暑を乗り切る神アイテム 冷却ベストで熱中症対策

農業は暑い環境下で作業を行うことが多く、熱中症リスクの高い業種です。県内でも夏季の熱中症事故が毎年多発しており、特に気温の高い7月～9月には注意が必要です。近年の温暖化による夏の暑さは、猛暑を越え酷暑となり、作物の暑熱対策が求められるだけでなく、生産者の身体にも大きな負担を及ぼしています。救急搬送や死亡事故にまでつながってしまった事例も報告され、熱中症対策は重要な課題となっています。

そこで、農業事務所では、防暑対策の一つとして活用が期待される冷却ベストを紹介しています。冷却ベストは、保冷材や気化熱を利用した冷却効果のある作業服として注目されています。施設野菜や花き、水稲経営等の生産者に、試着して作業を体験・評価してもらうなど、実

際の現場での活用効果を確認しました。



37℃近いハウス内での使用

丸朝園芸農協花卉部会では、製造メーカーとの研修会を実施しました。生産者からは、試着体験後に「夏の暑さ対策に最適」、「ベストを着着しても動きに制限がない」等の感想が寄せられました。



メーカーの講習で試着体験

熱中症対策の一つとして、今後も普及を勧めていきます。

ジャンボタニシ が急増!!

令和6年は各地でジャンボタニシが大発生し大きな被害を受けました。以下の対策を参考に被害の軽減に努めましょう。

▼代かき前々収穫前

代かき前は石灰窒素散布により殺菌し、個体数を減らします。田植後は水深4cm以下での浅水管理と、食害防止剤や殺菌剤により6葉期までの食害危険期間を乗り切りましょう。

▼収穫時々秋冬期

収穫時には、ほ場の凹凸を生させないために、コンバインを急旋回させないようにしましょう。また、秋冬期の耕うんを複数回行い、個体数の減少を図りましょう。

農地の貸し借りの 方法が変わります

みなさま、地域計画の協議に参加されましたか？目標地図には、御自身が耕作中の農地の耕作予定者として色を塗っていたいただきましたか？

地域計画の策定に伴い、これまでの市町による農地の利用権設定が、『農地中間管理機構（以下、機構）』を通じた目標地図に基づく貸借契約に切り替わります（利用権設定中の農地は次回更新時から）。

農地の貸借を希望される場合は、引き続き農地のある市町の窓口にて御相談ください。市町と機構が協力して農地の貸借手続きを行います。賃料の徴収や支払いは原則として機構が担当します。

なお、農地法第3条による権利設定は引き続き利用可能です。



詳しい対策は、農林水産省「スクマリンゴガニシ（ジャンボタニシ）の被害防止対策について」を御参照ください。

令和6年度認証 千葉県指導農業者・ 農業士紹介

千葉県では、優れた農業経営を行い、担い手育成や地域農業の振興に積極的に取り組む農業者を「指導農業者」、また、農業の担い手として営農に意欲的に取り組む農業者を「農業士」として認証しています。

今年度、山武地域で認証された方々を御紹介します。益々の御活躍を期待します。

【指導農業者】



○佐藤 和弘氏 (山武市)

露地及び施設野菜の経営を行っています。外国人材の活用に早くから取り組み、にんじんの栽培面積は7haと大規模経営を展開しています。



○鈴木 勝広氏 (芝山町)

露地及び施設野菜の経営を行っています。スイカは、

出荷が少ない時期に合わせて栽培するなど、高い技術を生かした経営を展開しています。

【農業士】



○小川 真人氏 (東金市)

水稻専作の経営を行っています。地域でも有数の大規模経営体であり、ドローンによる防除等、新技術を導入しています。

○渡邊 剛氏 (山武市)



施設野菜栽培を中心に、農家レストランや収穫体験等を行っています。研修生受入れや商品開発等、様々な活動に取り組んでいます。

農業経営体育成セミナー 受講者募集!!

農業事務所では、概ね45歳以下の新規就農者(親元就農・新規参入等)を対象とした「農業経営体育成セミナー」を開催しており、令和6年度は全体で43名が受講しています。

農業経営体育成セミナーでは、農業を営む上での基本的な技術・経営知識の習得と仲間づくりを目的に、年間10回程度の研修会を3年間のコースとして実施しています。

講義や実習のほか、先進的な農業者の視察、指導農業者や農業士等の先輩農業者との交流会、受講者の相互訪問など、実践的かつ多彩な研修カリキュラムを用意しています。

1年目の基本研修では、土壌肥料、病害虫防除、農作業機械の安全講習等を行います。

2年目の専門研修では、より専門的な土壌肥料や病害虫防除

の講習を行います。また、プロジェクト学習として、自身の課題解決に取り組みます。

3年目の総合研修では、経営をテーマとして、講義や視察を行います。また、今後の経営に向け営農計画を作成します。

さらに、毎年1〜2月に千葉市で開催される青年農業者会議(千葉県全域の新規就農者が集まり、発表や意見交換を行う場)へも参加し、他地域の新規就農者と交流する機会もあります。

現在、次年度(令和7年5月開講予定)の受講者を募集しています。興味のある方は、農業事務所改良普及課(TEL) 0475(54) 0226までお問い合わせください。